フラワーピックアップ

Flower Pick Up

シャリンバイ
車輪梅

GAの皆さんは、「シャリンバイ」という植物をご存知でしょうか。公園や街路、道路脇などの植栽に広く使用されている緑化植物です。

学名は Rhaphiolepis（ラフィオレピス）、バラ科の植物で、日本および中国などの東アジアに数種が自生しています。日本で緑化に用いられる、Rhaphiolepis umbellate という種は、主に日本の海岸部などに自生しており、その中から暑さ寒さや、排気ガス、潮風などの環境に強い品種が緑化工事用として選ばれています。日本原産の植物ですので、日本の環境に適するのは当然ですね。

会社員からシャリンバイ生産者へ

数年前から、このシャリンバイに新品種が登場し、緑化工事用だけではなく家庭園芸用にも使用され始めています。「シャリンバイ」の生産販売を行ないながら、新品種を開発された山下文吾さんの農場を、GA 委員の立花が訪問して、お話を聞く事が出来ました。

ちなみに山下さんは GAの資格をもたれています。（会員番号　GA11−815）

今回のフラワーピックアップは、GAの資格を生かしながら、品種改良を実践されている山下氏と「シャリンバイ」新品種をご紹介します。

～interview～

日本家庭園芸普及協会　立花委員　以下立花：はじめまして。日本家庭園芸普及協会のグリーンアドバイザー委員会の立花です。今日はよろしくお願いいたします。

B'S ガーデン　山下文吾代表　以下山下氏：ようこそ和歌山までいらっしゃいました。ここまでは結構時間かかったのではないですか。（山下氏の農場は和歌山市から車で30分程度、紀の川から山間部に上がった場所にあります）

立花：関西空港から車で来たのですが、この周辺は桃の大産地なのですね。一面の桃畑にはびっくりしました。また、あちらこちらに植木の農場もありました。

山下氏：和歌山で思い浮かぶのはミカンだと思いますが、和歌山の温暖な気候を利用した桃の生産は、山梨・福島・長野に次いで全国4番目です。また、花では花壇苗やスターチス等の切花生産も盛んです。立花さんが途中に見られた植木もこの紀の川周辺に数多くの生産農場があります。

立花：農業が盛んな県ですね。さて山下さんが「シャリンバイ」の新品種育成を始められたきっかけや、GAの資格を取得された経緯などをお聞かせいただけないでしょうか。

山下氏：私は、学校でも農業や園芸を学んだことはありません。39 歳まで会社員をしていました。妻の実家が農家で、いずれなんとかしなくてはと考えていたのですが、どうせなら積極的に農業に飛び込もうと思い、何もない状態からこの農場を立ち上げました。生産する植物は色々考えたのですが、安定して需要がある「シャリンバイ」の中で、生産者が極端に少ない「紅花シャリンバイ（スプリングタイム）」を選びました。

GAの資格は、植物の基本を体系的に学びたいという気持ちから取得しました。本当に植物とは無縁の世界にいましたから。

突然変異個体から「ペリドット」誕生

立花：さて、そのシャリンバイの中からどのようにして新品種を育成されたのでしょうか?

山下氏：農場立ち上げの時期から現在に至るまで、紅花シャリンバイの中でも一般に流通している品種を生産しています。その品種は種苗登録がありませんので、自分で親株を持ち、挿し木増殖をしています。既存品種の生産を進めているうちに、既存品種と比べて、草丈が低く、また葉と葉の間の節間が短い特徴を持った株が1鉢あることに気がつきました。紅花シャリンバイはご存知のとおり挿し木でしか増殖できませんので、その1鉢の枝を挿し木して増やしていきました。

立花：突然変異個体ですね。果樹もそうですが、木本植物はどうしても交配からだと時間がかかり過ぎるので、突然変異育種が多くなりますね。しかし、その1鉢を見落とさなかったのは素晴らしいことだと思います。

山下氏：貴重な苗を捨てることができなかったからです。草丈が低く、節間が短い、他のそれは全く違うので目に付きました。本来なら成長が遅いので捨てる苗だったのです。

立花：それから、その株を増やして、農水省に品種登録申請をされたわけですね。山下さんが自ら登録申請の手続きをされたのでしょうか?

山下氏：そうです。自分で登録申請手続きは行ないました。その際、グリーンアドバイザー受講講習や、更新講習での知識が大変役に立ちました。また、聞くだけではなく、講師の先生に直接相談してアドバイスをいただいたりしました。

立花：GAの資格や知識が役に立ったわけですね。私どもも本当に嬉しく思います。
シャリンバイの品種登録は、この山下さんの品種が初の登録と聞いています。

山下氏：登録番号19292号をいただき、また商品名として『ペリドット』と名付けました。新聞をはじめ、マスコミにも取り上げていただきました。

立花：その『ペリドット』の特徴を教えてください。

山下氏：先ほどお話した、この個体を見つけたときの特徴ですね。草丈も低く、また葉と葉の間の節間が短いことです。そして、花数は既存品種スプリングタイムの2倍ほど多く、分枝も多いのでコンパクトでありながらボリューム感があります。その他に、すそ葉が落ちにくいこと、比較的病気にも強いこともあげられます。

立花：実際に『ペリドット』を見せていただいたくと、それらの特徴がはっきりわかりますね。緑化工事用だけではなく、家庭園芸にも使えるのではないでしょうか。

山下氏：私もそのように思います!　緑化工事用の出荷以外にも、一般の通信販売サイトにも掲載しているんです。家庭園芸用としても利用していただき、多くの方に楽しんでいただければありがたく思います。可能な限り、各種展示会などにも出品していくつもりです。

立花：今後も、シャリンバイを始め、新品種開発を進められる予定ですか?

山下氏：立花さんも話されましたが、木本の育種の場合、突然変異育種が中心となると思います。とはいえ、変異の発生をじっと待っている訳にはいきませんので、先端技術を取り入れた育種にも取り組みたいと思っています。
また、和歌山は園芸の盛んなところで、ここから車で 10 分程度のところに和歌山県農業試験場があります。その研究員の方々にも育種方法とか、病害管理、開花調整などのアドバイスをいただきながら、シャリンバイの新品種開発を進めていくつもりでいます。

立花：それは素晴らしいですね。また、この記事を見て、全国約1万人の GA の方からもアドバイスがあるかもしれませんね。
本日は本当にありがとうございました。今後も、高品質な生産と、新品種の開発を期待しています。

山下氏：わかりました。今後ともGAの一人として、がんばっていきます。

シャリンバイ
バラ科シャリンバイ属。日本および中国に数種がある、常緑低木。葉は互生で革質、全縁またはきょ歯縁、短柄がある。花は白または淡紅色で頂生の総状または円錐花序につく。がくに 5 歯があり、花弁は 5 枚、雄しべは約 20 個、花柱は 2~3 個あり、基部が合着する。果実は球形で 10~11月に紫黒色～青黒色に熟し、1~2 個の種子を含む。
（参考文献：園芸植物大辞典／小学館）

後記

整然とした温室でのインタビューとなりました。シャリンバイのような緑化用花木の中にも、その環境に対する強さを利用して、家庭園芸に使用できる可能性があると思いました。購入されたい方は、「シャリンバイ」と「ペリドット」を検索サイトに入れて検索しますと、幾つかの通信販売サイトに掲載されており、購入する事が可能です。